

## 令和 6 年度に実施予定の向島及び姪島における外来ネズミ類駆除計画について

## 1. 経緯

東京都では、向島及び姪島におけるネズミ類の根絶を目指し、昨年度の事業検討会（母島属島外来種対策調査検討会）において駆除計画の詳細について検討を行った。向島及び姪島でのネズミ類駆除には表 1 のような制約要因が考えられるため、向島を優先して駆除を進める案と両島並行して駆除を進める案により検討を行った。検討の結果、検討会では両島並行案を推奨する意見が多かったことから、令和 6 年度中に向島及び姪島での実施を目指し、今後、計画の詳細を詰めていく予定である。

表 1 向島と姪島でのネズミ類駆除における制約要因

要因	内容	緩和策
渡航・上陸の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 母島属島への渡島は海況による影響を受け易く、特に冬季には渡島が不可能となる日の占める割合が非常に高くなる。向島は比較的上陸しやすいが、姪島では特に顕著である（R5 年度 12~2 月渡島可能率実績 向島 50%弱、姪島 15%弱）。</li> <li>◆ 上陸可能な海岸が限られており、栈橋等の施設が無いいため、上陸・荷役には困難が伴い、多量の資材の運搬は難しい</li> </ul>	<p>安定した作業の実施には、<u>冬季を避けて作業を実施する</u>事が望ましい。</p> <p>準備期間を含め、<u>駆除作業が長期間に亘る</u>ことを想定する</p>
作業可能な人員および宿泊施設の数	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 母島には作業員はほぼ常駐しておらず、作業の都度父島から渡島する必要があるが、母島は慢性的に宿泊施設が不足している。このため大人数の確保は難しい。</li> </ul>	<p>向島、姪島で並行して大規模作業をする事は不可能であり、作業時期をオフセットする必要がある</p>
オガサワラカワラヒワへの影響回避	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ オガサワラカワラヒワの繁殖地であり、特に向島は重要性が高い。飛来期の殺鼠剤喫食のリスクや繁殖期（特に春繁殖期？）の攪乱影響を加えることは避けるべき。</li> <li>◆ 上記の渡航・上陸の困難さから冬季以外の時期に殺鼠剤を散布する場合、散布実施時にオガサワラカワラヒワ捕獲による一時避難などの対応を検討しておく必要がある。</li> </ul>	<p>両島における繁殖状況を鑑みて、飛来期における作業内容を決める</p>
ドブネズミの生活史	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 母島属島におけるドブネズミの生活史は不明だが、春から秋にかけて繁殖が活発であると想定される。根絶を目指すには繁殖期以外に駆除が実施されることが望ましい。</li> </ul>	<p>冬季にも殺鼠剤に曝露されうるような駆除スケジュールを検討する</p>

## 2. 両島並行案による全体スケジュール案

表2 両島並行案に基づいた向島と姪島における令和6年度の駆除スケジュール案

時期	向島	姪島	備考
4～6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ BS 未設置地域に増設作業</li> <li>■ 既存の BS および新設した BS に殺鼠剤を充填</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ BS 設置および手撒き散布実施を想定して、作業動線の作成</li> </ul>	オガサワラ カワラヒワ 春繁殖期
7～8月	可能な範囲で BS に殺鼠剤充填	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ BS の設置等、大規模散布に向けた準備作業</li> </ul>	
9～11月	(オガサワラカワラヒワのモニタリングの状況によっては緊急的な対応も想定)	<b>手撒きと BS による全島対策 (向島での作業状況によっては実施を見送る可能性あり) 状況に応じドローン等による空中散布も併用</b>	オガサワラ カワラヒワ 秋繁殖期
12～2月	<b>手撒きと BS による全島対策 状況に応じドローン等による空中散布も併用</b>		海況不良 ネズミ繁殖 不活

## 3. 各島におけるネズミ類駆除計画案

各島におけるネズミ類駆除計画案及び作業工程案の概略を以下に示す。

## (1) 向島

**目標**

向島及びその周辺の離岩礁からの外来ネズミ類の根絶

**駆除手法**

第1世代抗凝血性剤(ダイファシノン)の散布

**実施時期**

令和6年12月～2月

オガサワラカワラヒワの飛来時期を避けるため、冬季に実施する  
地上作業による駆除では散布不可となる範囲が生じることから、なるべく長期間にわたりネズミ類が殺鼠剤に曝露できる期間を取ることが望ましい

**散布手法**

地上作業による殺鼠剤の手撒き、およびベイトステーションへの充填併用  
散布機の開発状況に応じてドローン等による散布の併用を検討する

**非標的種・環境への影響と回避策**

非標的種への影響と回避策は以下のとおり

非標的種	想定される影響	回避策
海鳥類	駆除作業に伴う巣穴の踏み抜き	・駆除実施前に繁殖地を作業員全員で共有するとともに、作業時の踏み抜きに留意し、踏み抜いた場合は土を掻きだし、穴を確保することとする
トンボ類、淡水生物	陸水域やトンボ池に殺鼠剤が落下することによる陸水の富栄養化	・沢や水たまり、トンボ池に殺鼠剤が落下しないように留意し、落下した殺鼠剤は回収する
オガサワラセセリ	駆除作業に伴う生息環境の攪乱	・事前に生息地を把握し、作業員に共有するとともに、踏圧などによる影響の回避に努める
希少植物	駆除作業に伴う踏圧	・事前に生育地を把握し、作業員に共有するとともに、踏圧などによる影響の回避に努める ・繰り返し作業が必要な場所は動線を固定し、生育地を極力避けるように設定する
陸産貝類	・駆除作業に伴う踏圧	・事前に生育環境を把握し、作業員に共有するとともに、踏圧などによる影響の回避に努める ・繰り返し作業が必要な場所は動線を固定し、生息地を極力避けるように設定する

環境への影響については、殺鼠剤成分が土壌、陸水に流出する可能性があることから、殺鼠剤成分の環境中への残留状況を確認するため、殺鼠剤の散布前後に土壌、陸水における残留分析を実施する。

#### 駆除の評価方法

島内に設置済みのセンサーカメラも継続しつつ、おおむね 2ha に 1 基の割合となるようセンサーカメラを追加設置し、駆除実施中、および駆除後にかけて継続的なモニタリングを実施する。

#### 課題 (or 留意点)

- 海上からの資材の運搬はカヤック及びゴムボートなどによる方法に限定されるため、海況が安定していることが条件となる(ただし、湾内であるため姪島に比べると好条件)
- 面積が比較的広いため、全域で散布するためには多くの人員ないし散布日数を要する
- 海岸等の一部に奥行き深い海食洞が存在するため、接近が可能な箇所については内部まで殺鼠剤を散布する必要がある
- 作業員の立ち入りが困難な海岸の急傾斜地や離岩礁については、隣接箇所での散

布量の増加やベイトステーションの増設のほか、ドローン等による空中散布の実施を検討する。ドローン等による散布の可否は、現在環境省事業により検証中のスローパック剤散布が可能な散布機の開発状況に応じて検討する。向島での全島対策に導入するには、遅くとも 10 月頃までに実用の可否に関する判断が必要となる。また、状況によっては過去に聳島列島での駆除において使用した粒剤散布機によるドローン散布の実施も検討する。

## (2) 姪島

### 目標

姪島及びその周辺の離岩礁からの外来ネズミ類の根絶

### 駆除手法

第 1 世代抗凝血性剤（ダイファシノン）の散布

### 実施時期

令和 6 年 9 月～11 月

オガサワラカワラヒワの飛来時期を避けることが望ましいが、冬季の海況不良時の困難性を鑑みて時期を検討する必要がある

地上作業による駆除では散布不可となる範囲が生じることから、なるべく長期間にわたりネズミ類が殺鼠剤に曝露できる期間を取ることが望ましい

### 散布手法

地上作業による殺鼠剤の手撒き、およびベイトステーションへの充填併用  
散布機の開発状況に応じてドローン等による散布の併用を検討する

### 非標的種・環境への影響と回避策

非標的種への影響と回避策、環境への影響評価は向島と同様（ただし殺鼠剤散布前の土壌、陸水における残留分析は検出限界以下であることを確認済み）

### 駆除の評価方法

島内に設置済みのセンサーカメラにより、駆除実施中、および駆除後にかけて継続的なモニタリングを実施する。

### 課題（or 留意点）

- 上陸可能地点が限られており、地形的に波浪の影響を強く受けるため、海況不良の場合には上陸が困難となる
- 海上からの資材の運搬はカヤック及びゴムボートなどによる方法に限定されるため、海況が安定していることが条件となる
- 地形及び植生（乾性低木林が広範囲）などの状況から全域で散布するためには多くの人員ないし散布日数を要する
- 作業員の立ち入りが困難な海岸の急傾斜地や離岩礁については、隣接箇所での散

布量の増加やベイトステーションの増設のほか、ドローン等による空中散布の実施を検討する。ドローン等による散布の可否は、現在環境省事業により検証中のスローパック剤散布が可能な散布機の開発状況に応じて検討する。姪島での全島対策に状況に導入するには、遅くとも8月中に実用の可否に関する判断が必要となる。状況によっては過去に聳島列島での駆除において使用した粒剤散布機によるドローン散布の実施も検討する。